

個別の指導計画 (知的障害特別支援学級)

記入日 令和〇〇年〇〇月〇〇日

氏名・学年	〇〇 〇〇 (〇〇小学校 4年 男)	本人の願い	・勉強をがんばりたい。	記入者	〇〇 〇〇
保護者の願い	・ひらがなを讀めて書けるようになってほしい。				
長期目標	・生活に必要な習慣や技能を身に付け、自分の身の回りに生かすことができる。				
教科等	児童の実態	指導目標	指導内容・指導方法(手立て)	評価	
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「め」「ぬ」「れ」「わ」などの形が似た文字を讀み間違えたり、書き間違えたりすることがある。自分の名前も、漢字交じりで書くことができる。 (例：かわ ⇒ 川) 特殊音節の読み書きは、練習中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活で使用する物の名前をひらがなで讀んだり書いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字カードとその文字が入ったイラストカードを使って視覚的に示し、繰り返し学習する。 (例：め ⇒ 目のイラスト) 特殊音節については、MIMを使い、目で覚え、読みにつなげられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> その文字に関するイラストカードやMIMを使って目で覚えられるようにしたことによって、楽しんで学習することができるようになった。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 10のまとまりは理解できており、10ずつ数えて100になることも分かっている。 簡単な2位数同士の計算は、筆算を使って計算することができる。 金種は分かるが、10円玉、50円玉、100円玉、500円玉を使って、800円と同じ金額になることなどを学習中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 1000円紙幣から、500円硬貨1枚と100円硬貨4枚、50円硬貨2枚など、比較的複雑な両替をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の硬貨を用いたり、イラストカードを使ったりして、具体的に操作できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を使いながら操作することで、正しく両替することができるようになってきたが、販売活動で両替に応じられなかったり、お釣りを正しく渡せないことがあった。実際の体験活動を通して、活用できるように指導する必要がある。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことは嫌いではないが、体操やダンスの場面では、動きをまねることが苦手で、消極的な態度になることが多い。 活動内容が分かれば、流れに沿って取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者が行う簡単な動作をまねることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助者が、児童の目の前で同じ動きをしたり、動きが分かる写真を提示したりしながら、動かす身体の各部位が分かるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目の前で動きを見せると注目でき、まねることができつつある。難しい場合には、児童の背後から身体プロンプトを行い、実際この部分を動かすのが体験しながら活動すると、できることもあった。 	
自立活動	<p>人間関係の形成(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを言葉でうまく相手に伝えることが困難なことがある。 苦手が活動は、失敗したくない気持ち強く、自分に自信がもてないために行動をためらうことがある。 <p>環境の把握(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の身体に対する意識が十分に育っていないために、ものや人にぶつかったり、簡単な動作をまねることが難しくなったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいことを考え、落ち着いて伝えることができる。 イラストや動画と同じ動きを模倣することができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人に伝えるときの仕方をコミック会話やイラストカードを使って練習する。できていることを状況を言葉にだして伝え、賞賛して自信につなげる。担任と練習を積み重ね、徐々に周りの大人へ広げたり、交流学級の仲間にも伝えられるようにする。 簡単な動きが示されたイラストを提示したり、動画アプリなど使用したりして動きを獲得できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> コミック会話やイラストカードを使って練習したことにより、自分の思いや要求を伝えることができつつある。交流学級の友達に自分から話しかける場面もみられるようになってきた。 視覚優位なこともあり、イラストや動画は受け入れやすく、楽しんで動きを獲得することができた。交流学級担任とも連携をとり、視覚的に提示するなどの配慮を共有する必要がある。 	

※自立活動の区分・項目は、全て記入する必要はなく、児童生徒の実態に応じて選択します。

※各教科については、児童生徒の実態に応じて選択します。

各教科等を合わせた指導

	児童の実態	指導目標	指導内容・指導方法（手立て）	評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生活単元学習の指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で、着替えることはできるが、衣服の前後を間違ふことがある。 ・ハンカチを携帯する習慣がなく、手洗い後、服で拭いてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服のタグを手がかりに、前後を間違わないように着ることができる。 ・ハンカチを携帯する習慣を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えるときに、服のタグを確認するよう促したり、イラストカードを提示して注意できるように示す。 ・朝の準備の際に、ハンカチをズボンのポケットに入れるなどの一連の流れを組み込み、習慣化していく。 ・手洗い後、ハンカチで拭くことを忘れている場合は、声掛けを行い、自分から出して拭けたときにはその場で賞賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストカードを提示しておく、自分でそのカードを指差ししながら、着替えることができるようになった。 ・毎朝、一連の流れに取り組んだことにより、ハンカチを携帯することができるようになった。また、ハンカチを携帯できるようになったことで、拭き忘れも少なくなっている。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生活単元学習</p>	<p><u>買い物学習</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・店で買い物をする経験は積んでいる。買い物をする際の一連の流れは理解できているが、実際の買い物の場面では、レジで支払う際、100円硬貨がなければ10円、50円硬貨を組み合わせるなどの対応ができなくなることがある。また、レシートを見て、おつりを確認することを学習中である。 <p>※ 特に必要なあり、生活単元学習として取り組んだ活動について記述する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな金種を組み合わせで支払ったり、おつりを確認したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内練習、実際の店舗での買い物を繰り返すことで、体得できるようにする。 ・算数科で使用したイラストカードを用い、両替の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストカードを用いた練習、実践を繰り返すことで、算数科での学習を思い出しながら、500円以内の買い物であれば、金種を組み合わせで支払うことができるようになった。